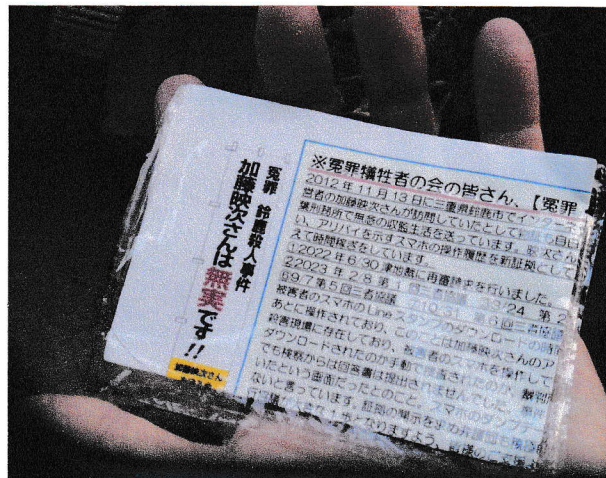


が行われています。

ここまでの流れを簡単にまとめてみましょう。事件のあった日の16:37頃に被害者のスマホ(iPhone)にLINEスタンプがダウンロード(以下、DL)されたのは事実です。LINE社に問い合わせると、「端末を操作しないとDLはされない」という回答だったということでした。そこで弁護団はこれを核にして、2022年6月23日に再審請求申立てを行いました。しかし検察は(被害者の端末が操作されなくても)自動DLの可能性もある、と反論してきました。

ですが、発見された際の端末の画面は「You got mail」になっていて、LINEはバックグラウンドになっていたのでDLは出来ない状態でした。※フォアグラウンド、バックグラウンドについては前号33号をご参照ください。



映次さんのご両親がいつも配布しているティッシュには息子の無実を訴える紙が入っている。

さて、ここで映次さんの解説をお借りします。被害者のスマホにLINEスタンプがDLされているのは事実。LINE社の説明を分析すると、

①スタンプが購入された場合 → ディレクトリ(格納庫)Aに保存される

②スタンプを受信した場合 → ディレクトリ(格納庫)Bに保存される

※ただし②の場合、スタンプが過去に購入された場合でないとは起こりません。新規で勝手に新たなスタンプが自動DLされることはないのです。

※今回の場合、ディレクトリ(格納庫)の位置から①スタンプは購入されていたとLINE社も認めています。

③自動DLが行われたのであれば、iPhoneのLINEアプリで定期更新の日時がDL時刻に設定されていないといけません。

ということになります。①から③が明確にならないと、フォアグラウンドかバックグラウンドかの議論は意味がない。そして映次さんの強調したいポイントは下の2つ。

● 検察が自動DLを主張するなら、スタンプが事前に購入されていたことを証明しなくてはならない。

● 検察は購入履歴を示さずに反論してきた。非常に無責任。主張も弱い。



千葉刑務所まで面会に訪れた加藤元博さん・由紀さんご夫妻。アクリル板越しではなく、同じ部屋で語り合える日はいつ?

ここで話を戻します。検察は立証責任は弁護側にあると言っているようです。しかしLINE社と交渉しているのは検察です。しかも内容はブラックボックスです。そもそも本当にLINE社と交渉しているのか? また裁判所もこのじれったい状況を打破するように、検察に催促すらしていないのです。(今度の裁判長は検察に甘いようです。)直近の三者協議(12月19日)でも進展は無し。1月を目途に、LINE社とのやり取りを検察から出

すことにはなっていますが…。この会報が皆様のお手元に配布される頃には何らかの進展があることを願うばかりです。(なつし聡)